



## 「明日は卒業式！立つ鳥跡を濁さず」

いよいよ、明日、卒業式です。旅立ちの時ですね。卒業していくみんなに最後に心してほしいことがあります。それは、「立つ鳥跡を濁さず」ということです。

人生には、いくつかの節があります。一つの節が終わって、さらに次の節に向かいます。節とは生活環境が大きく変わる場面をいいます。明日の卒業は、あなた方にとって大きな節目の時です。環境が新しく変わる時は、今までお世話になった人にお礼をしたり、親しかった人に挨拶をして別れます。新しい環境になったら、今までの環境の中で一緒に生活していた人とはもう、会うことがないということもあるからです。むしろ会わないことのほうが多いと思います。ですから、別れの時は、失礼の無いように、気持ちよく、お互いがきれいに別れることが大事です。水鳥が、季節の変わり目に、新しい生活の場所に飛び立っていきます。いわゆる渡り鳥です。その時に、水鳥は沼や湖を濁らせないように飛び立っていくそうです。そこから、「立つ鳥跡を濁さず」という諺が生まれました。



明日は、在校生、先生方と気持ちよく別れができるようにしましょう。「もう、出ていくのだから関係ない。勝手なことをしていく」というような人間にならないでください。跡は濁さずに卒業していきましょう。「明日、教室でスマホで写真撮るんだ。最後だから学校の決まりなんて関係ないよ。汚れた上履きなんて捨てていこう。先生に注意されたって、卒業するから関係ないよ」このような行為は、最後の最後に泥を塗りつけるようなものです。そのような行動を「後は野となれ山となれ」とか「旅の恥は掻き捨て」とかいいいます。もう会うことがないことを理由に、好き勝手なふるまいをして無責任な行動することに対する諺です。

「立つ鳥跡を濁さず」の人と「後は野となれ山となれ」の人では大きな差があります。以前中学校の卒業式が終わって、ある生徒が昇降口を出て、汚れた履き古した上履きを校庭に捨てて帰ろうとしました。「〇〇さん、上履き忘れてるよ」と私が注意すると「いいんです、捨てたのですから」といったので「ここは〇〇中学校の校庭だよ」と言うと「もう卒業したから、関係ないです」と答えてきました。私は、上履きを拾って「あなたは、〇〇中学校を卒業したから学校は関係はないというのはわかったけど、この上履きは、君のものだから関係あるでしょ。あなたが持ち返ってください」と声をかけたが振り向きもしないで下校してしまった。自分の使った上履きも持ち帰って処分する事もめんどくさいと言って捨てていく生徒の後ろ姿を見て、悲しい気持ちになった。

人は「立つ鳥跡を濁さず」ということが大事だなと思います。明日は、私物は全て持ち帰り、さわやかな、綺麗な別れをしてください。…城山中学校との別れなのだから。









